

# 聖マリア国際協力ニュース

第 9 1号

平成20年3月1日発行

## 「南東欧地域病院運営」コースを修了して



修了式での記念写真 前列一番右の男性が筆者

〔 国際協力部より 〕

2月15日をもちまして今年度のJICA研修「南東欧地域病院運営」コースを無事に終了することができました。研修実施に当ってご協力いただいた講師ならびに関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

研修の終盤では、それぞれの病院運営改善に向けたアクションプランの作成に四苦八苦し、あまり睡眠時間が取れず、疲労困憊の状態での研修も見受けられましたが、「今回の研修は本当に貴重な経験だった」と皆異口同音に語っていました。

また研修の修了に当り、研修員を代表してセルビア国のスロボダンさんが病院職員にメッセージを残してくださいましたので、以下に掲載いたします。

私は1月21日から2月15日まで聖マリア病院で実施されたJICA研修コースに参加しました。この研修コースは、これまで私が経験した研修の中で最も充実した内容のものでした。

今回の研修内容は、(研修参加の)対象国における病院管理者のニーズや興味を十分に満たしていました。医療機器のための予算作成から、無駄を排除するための管理手法に至るまで、病院管理に関するあらゆる要素が盛り込まれていました。

理論についても聖マリア病院が実践してきた事の裏づけがなされており、優れた教材を研修員に提示していただきました。知識や実践的なスキ



資材部での研修の様様

## ヤンコピッチ・スロボダン (セルビア)

ルだけでなく、病院運営における重大な局面でいかなる姿勢で臨むべきかについても良く理解することができました。またセルビアへ帰国した後、私が勤務する病院に適用できそうな実践的な講義も数多く受講することができました。研修スケジュールは研修員の負担に配慮した適切なもので、資料について考察したり、得られた知識を整理するための十

日本滞在中  
はいろいろと  
ありがとうございました。  
スロボダン  
セルビア

筆者の直筆メッセージ



職員交流会での一コマ

分な時間を持つことができました。研修に使用する資料は適切なタイミングで配布され、また各講義は計画された時間どおりに開始され終了しました。各講師の姿勢は常に積極的で、研修員たちの興味を喚起してコミュニケーションを図ろうと努力されていました。

コーディネーターの片山さんは単に通訳するだけでなく、時には追加説明を交えて、常にベストを尽くしておられました。コースリーダーとして当研修を実施し、常に研修員に対して配慮してくださった杉本さんには特別な謝意を表したいと思います。また矢山さんも責任感を持って、研修期間中ずっとハードワークな調整役を務めていただいたことに感謝いたします。

また研修以外でも、日本の文化や生活様式に触れる貴重な機会に恵まれ、その獨創性や高い有用性に深く感銘を受けました。また片山さん、杉本さん、矢山さんは多くの勤務外の時間を割いて、私が日本文化を理解するための手助けを一生懸命してくださりました。私が日本について学んで来たことは、私が人生に向かう姿勢に深い影響を与えました。また不確かな未来についての答えを求めるときにも役立つものと思います。

最後に、快適なマリアンハウスを宿舎として用意していただいたことにも感謝いたします。また聖マリア病院の職員の皆様、JICAスタッフの皆様をはじめ、日本での滞在中にお世話になった全ての方々に感謝申し上げます。このことは決して忘れません。



## ラオスでの研修を終えて



村人参加型の保健教育

国際保健コースの研修としてラオスでの研修をさせていただきました。研修の目標はラオスという地域を通じて医療保健活動を計画することであり、ラオスでの研修以外にも事前の情報収集、計画立案、調査を踏まえての計画修正なども勉強させていただきました。

ラオスはタイの東隣に位置する内陸国で人口565万人、面積23万6800km<sup>2</sup>、公用語はラオ語、宗教は90%が仏教、約49民族を有する多民族国家です。と、ひとくちに言っても首都のビエンチャンと今回調査をしたカムアン県では生活の豊かさが大きく異なっていました。同じカムアン県内の村でも土地の肥沃さや水源の得やすさ、他の村との交流の有無などにより、食物の充足度、生活の豊かさが異なり、それが人々の体格や衛生状態に反映されていました。印象的だったのは、ある程度衣食住が満たされ健康問題も抱えていない村では、たとえ便利な生活ではなくてもおしゃべりや笑顔にあふれていて日々の生活を楽しく過ごしているということでした。今後村の生活が発展しても人と触れ合い楽しく過ごすことを忘れないで欲しいと思いました。

さて、国際保健研修として研修医3人はそれぞれに活動計画を立案しました。私はEPI (Expanded Program on Immunization 拡大予防接種計画) 改善計画と題し、その視点からラオスでの研修を行いました。写真はmobile clinicの様子で、村人たちに集まってもらい、妊婦検診、予防接種、Vit.B1配布、健康相談など様々な活動が一度に行われていました。大勢が集まりわいわいがやがやとお祭りのような雰囲気でした。

## 今月の動き

【受入】

・3月1日(土) 韓国カトリック医療協会研修生帰国

【派遣】

- ・2月26日(火)～12月25日(木) 飛永浩一朗(リハビリテーション室): JICA ボランティア派遣でスリランカへ
- ・3月2日(日)～3月8日(土) 浅田光博(運搬推進チーム)、井福武志(臨床工学室): JICA「南東欧地域病院運営」フォローアップ派遣の為、セルビア共和国へ
- ・3月3日(月)～5月30日(金) 矢野和美(救急診療科): JICA 専門家派遣 (NGO 技術者派遣事業) の為スーダンへ
- ・3月15日(土)～3月29日 山崎裕章: JICA アフリカ地域サブサハラアフリカ結核対策基礎情報調査の為ケニア、エチオピアへ

## 臨床教育本部 稲熊容子

郡保健局や郡病院見学で感じたことは病院や保健施設などの建物は支援団体からの支援を受け整備されていたが、スタッフのレベルや医療機器、器具、提供される医療に関しては大いに改善の余地があるという事でした。周辺地域における病院の信頼に関しては、聞き取り調査で「体調の悪い人がいたらどうしますか?」という問いに「まずは村のヘルスポストに行き、そこで対応できない場合に病院へ行く」と返答があるように、村人たちの信頼は大きい様でした。改善すべき点はその病院に行くまでの距離(調査した村では「車で1時間ほどかかると」と話していました)や、その病院で適切な医療が受けられるかどうか、今回調査をした以外の村でも同じように病院の信頼性が確立されているかどうかだと思いました。



村での聞き取り調査の様子

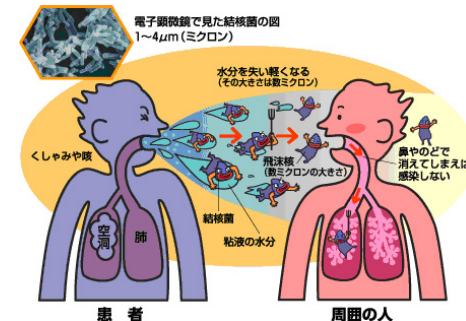
2年間の初期臨床研修のうち、他施設にはないこの研修を楽しみにしていました。国際協力部のスタッフや先生方、ISAPHの方々のおかげでも充実した研修となりました。ありがとうございました。

## 結核の日?

国際協力部 山崎裕章  
九州産業衛生協会 宮城裕人

3月24日は世界結核デーです。結核は過去の病気と思っている人が多いのでは? ところが世界では毎年880万人が新たに発病し、200万人が結核で命を落としています。日本においても平成18年には26,000人が新たに発病しています。3月24日は、世界で結核撲滅のための啓蒙活動が行われます。皆様ももう一度「結核」を意識してみませんか。

3月24日はロベルト・コッホ (Heinrich Hermann Robert Koch) 博士が結核菌を発見した日です。



出典: 結核予防会